

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	設計事務所（経営者）	・受注拡大により、新規受注については適正価格の業務を選べるようになり、結果的に価格転嫁が実現し、従業員の賃金への反映を進めている。業界全体で価格の適正化が進めば、景気に影響力のある業種のため、景気は上向くのではないかとみている。
	○	商店街（代表者）	・商店街にかなりの空き店舗が出ているが、ここのところ、ちらほらと若い経営者が入ってきている。その人たちがこれからどういう経営をするか期待している。今までよりも良くなることを期待している。
	○	スーパー（経営者）	・新規で高齢者施設に納品する仕事が増えるため、恐らく良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・夏休みやお盆シーズン到来で帰省客が増えるため、やや良くなる。
	○	観光型旅館（経営者）	・中東情勢や令和8年熊本地震の発生等もあるものの、予約状況は比較的好調なため、改善傾向でやや良くなると想定している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・8月は、1番の繁忙期で、特に宿泊の繁忙期となる。前年よりも客室単価を上げて販売しているが、前年より予約数が多くなっている。また、9月、10月に関しても同様に、前年比5%以上増加の予約成立数になっている。需要が高い時期については、高価格で販売している分もある程度予約が入っており、需要の弱いときも、前年より高い料金設定をしているが、販売できている。宿泊に関しては、客がある程度値上げに対して仕方ないという認識を持っている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・8月の売上が、既に前年比の6割程度みえている。例年より高単価で販売ができそうだが、下旬からイベント等が一段落して予約自体が弱くなると考えている。
	○	タクシー（経営者）	・猛暑日が多くなり、客の利用は増える傾向にあるため、やや良くなる。
	○	通信会社（社員）	・8月から新規エリアが開局予定である。獲得数の見込みは不透明だが、問合せも増えてきている。ただし、解約も微増傾向のため、抑止策を講じていく。
	○	遊園地（職員）	・夏休みシーズンのコラボイベントなどの実施に加え、新エリアのオープンを契機に積極的な情報発信を行い、より多くの客の来園を期待している。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・エアコンやLED照明器具の購入はまだ続いており、家電業界の売上の伸びは期待できそうである。ただし、機材や部材の値上がりは収まらず、消費者の財布のひもは固くなりそうである。
	□	百貨店（営業担当）	・相変わらず物価高が続き、この先はどうか分からない。円安もまた進んでおり、更にインフレ、値上げの問題が出てくる。ガソリン代も補助金がなくなると徐々に上がってくるため、良くなる可能性は余りない。
	□	スーパー（経営者）	・原油やナフサの調達難から、価格の高止まりが続くと予想している。客の消費意欲は低下したままで変わらない。
	□	スーパー（店長）	・猛暑や降雨の影響により、生鮮食料品の価格に影響が出てくるとみている。ガソリン代の高騰等、値上げ基調の流れは変わらない。
	□	スーパー（企画担当）	・多少の猛暑需要はあるかもしれないが、影響がありそうな外的要因に乏しい。
	□	コンビニ（経営者）	・現状は暑さから冷たい商材がいろいろ売れているが、しばらくすれば多少落ち着いて前年並みの状況になる。
	□	コンビニ（経営者）	・来月以降も高温予報のため来店頻度は高くなるが、物価高もあり、買上点数に響くとみている。
	□	コンビニ（エリア担当）	・今後の天候次第で、大きく影響される。
	□	コンビニ（店長）	・直近はどちらかというと気温の関係で若干上下がある程度で、特別大きく変化することはない。客の財布のひもはかなり固くなっているが、日々買物する分は特に変わらないとみている。

□	コンビニ（総務担当）	・猛暑のため、飲料、氷菓、冷たい麺等の販売量の増加は、来月以降も続く。
□	家電量販店（店長）	・季節商材の工事枠が9月まで埋まっているため、これ以上の売上が見込めない。
□	乗用車販売店（経営者）	・新車受注が堅調に推移していることから、販売台数も今の好調さを維持できると予想している。
□	自動車備品販売店（従業員）	・タイヤは値上げ前の需要が見込まれるものの、廉価タイヤへのシフトが進んでいるため、変わらない。
□	一般レストラン（経営者）	・天候の影響が大いにある。
□	スナック（経営者）	・急激に暑くなり、皆、酒が飲みたいのか、久しぶりに来店する客も増えたり、少し良い傾向にはあるが、一時的なものではないかとみている。相変わらず、団体の予約も余り入らず、見通しは余り明るくない。
□	観光型旅館（経営者）	・7月以降、11月頃までの予約の動きが例年よりも若干良い状況となっている。秋までは現状同様にやや良い状況が続くとみている。しかし、冬は悪くなる要因と良くなる要因が混在しており、状況が全く見通せない。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は堅調に推移しており、フリー客の動きもある。直近の月は更に動きが出る月でもあるため、その後は徐々に落ち着いた動きとなり、今月と同じくらいの推移で進むとみている。
□	旅行代理店（副支店長）	・現在の受注状況は、物価高による国内旅行消費の低下、燃油サーチャージの高騰や円安による海外旅行の足踏み状況が続き、旅行需要の陰りが見え始めている。
□	タクシー運転手	・前年12月に1人、3月に1人、今月1人入社したため、徐々に当社の売上は上がってくる見込みだが、周りの景気については何ともいえない。
□	ゴルフ場（副支配人）	・物価高騰、円安、異常気象、災害、プレー人口の高齢化と、余暇への支出が伸びる要素が見込めない。
□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・猛暑が続くと、外出の機会が減る可能性はある。
▲	商店街（代表者）	・中東情勢や値上げに関する報道、そこに令和8年熊本地震の発生と、客の購買マインドが下がっている。
▲	百貨店（経理担当）	・中東情勢や円安が安定しない限り、しばらく悪い状況は続くとみている。また、令和8年熊本地震や猛暑、酷暑対応で更に消費が鈍る可能性があり、地方百貨店はインバウンド需要も期待できず、取り巻く環境は依然として厳しいことが予想される。
▲	百貨店（店長）	・残暑の影響により、例年以上に秋物の動きが鈍いのではと懸念している。
▲	コンビニ（経営者）	・3か月後は特に目立った連休やイベントのない月のため、夏よりは来客数が減少する。天候が良ければ紅葉などで客足は増えそうだが、余り期待できない。
▲	高級レストラン（経営者）	・物価高や円安、中東情勢も混迷を極めているなど、景気の良くなる要素が見つからない。
▲	スナック（経営者）	・居酒屋業界は本当に厳しくなっている。前月からバイトの人数も減らしてコロナ禍の頃の態勢に戻している。席数の多い店が閉店するのをよく見掛けるようになり、空き店舗も増えている。
▲	通信会社（社員）	・物価の高止まりが続いているため、良くなることはない。
▲	観光名所（職員）	・観光客の増加は見込めず、燃料や食料品の原材料価格の高騰が利益を圧迫する。
▲	ゴルフ場（経営者）	・世界情勢が不安定なため、やや悪くなる。
×	商店街（代表者）	・客足の回復をひたすら待つしかない。
×	スーパー（副店長）	・物価高騰、中東情勢、令和8年熊本地震の発生と、今まで以上に将来に不安がある。現状の生活にゆとりがなく、景気が上向くイメージが全く湧かない。
×	コンビニ（経営者）	・円安や物価高で、悪くなる。

	×	その他専門店〔酒〕（店長）	・今までのウクライナや中東情勢に、令和8年熊本地震も加わって、非常に厳しい状況になるのではないかと考える。今まで価格弾力性の低い商材で、売上が維持されてきた部分もあるが、そういった商材を中心に、どこまで持ちこたえられるか。これからもインフレは加速していくことを前提に経営をしていくが、人的な部分や自然災害も重なり、悪くなるとみている。
企業 動向 関連 （甲信越）	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体需給が回復し、良くなる。
	○	食料品製造業（営業統括）	・低価格帯の商材が中心ではあるものの、引き続き問合せ件数は増えているため、やや良くなる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・特需的な要素はあるが、案件が増加しているため期待は持てそうである。ただし、調達部品の入荷が遅れており、懸念はある。
	○	建設業（経営者）	・全体の景気が良くなることを期待しており、また、実際に少しずつ良くなっている。
	○	金融業（経営企画担当）	・現在の報道等から今後は中東情勢が落ち着きを見せるのではないかと期待している。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料費が高騰している間は、景気は上向かない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・量販店の自社企画製品小売業化や、他業種からの参入等、市場環境は厳しい状況が継続している。加えて歴史的な円安により原価高騰も続いている。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	・様々な物が値上がりしているが、受注量自体はそれほど変化がなく推移している。ただし、材料等の入荷が遅延している関係上、多少不安が残る。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・海外で金やプラチナの価格が下がっても、円安のため、国内価格は変わらない。人件費や材料の高騰で商品価格が下がらず、生産現場は引き続き厳しい状況にある。
	□	金融業（調査担当）	・不透明な中東情勢の影響から、企業の先行きのマインドは慎重な見通しとなっている。ただし、製造業の受注はA I 関連を中心に底堅く推移するほか、非製造業は夏場の観光需要は例年並みの予約状況を維持しており、横ばいとなる。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏休みのワークショップの予約見込みに期待感があるものの、製品生産量は減少予定である。
	▲	輸送業（経営者）	・中東情勢による燃料価格上昇が懸念されている。
	×	食料品製造業（製造担当）	・ナフサ関連商材の値上げが止まらないため、当店も再度値上げをしないとますます財務状況が悪くなる。しかし、値上げをすると売れなくなるとい、非常に厳しい状態が続く。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 （甲信越）	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	・ボーナス商戦でも購買意欲が湧かず、何も変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・今後の景気は、製造業に復調の兆しがみられるものの、中東情勢の不透明感が強く、依然として先行きに対する不安は大きい。
	□	職業安定所（職員）	・中東情勢の影響がじわじわと出てきている。休業する事業所も出始めている。
	▲	職業安定所（職員）	・物価が上がり続けているということを多くの求職者が意識している点が、より顕著になってきた。入職時の処遇もさることながら、中長期的な収入の見通しを意識した求職活動を行う求職者の動きが確認されている。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	・求人进行けん引する製造業において、新製品開発に関連したデザインを含む機械設計の求人は少なく、手堅い現行製品のアレンジに終始する傾向が高まっている。
	×	—	—